

# 鶴岡八幡宮の流鏑馬および小笠原流・武田流

## The Horseback Archery of Tsuruokahachiman-gu Shrine and Ogasawara Style/Takeda Style

1K04B073-5

木下 三輪

指導教員

主査 寒川恒夫先生

副査 杉山千鶴先生

### 序章

鎌倉にある鶴岡八幡宮は歴史が長く一年を通して観光客が多い。中でも、春の鎌倉まつり、秋の例大祭の人出は初詣に次いで多く、大変大きな行事となっている。

その集客率の高い二つのまつりでは「流鏑馬」が行われている。見る者を圧倒する迫力、そして鮮やかな衣装を身にまとった射手の美しさ、鎌倉の歴史を目の前で感じられるイベントであり、感動させられる。

その流鏑馬を見るうちに、春と夏で少し雰囲気異なることに気がついた。秋の流鏑馬の時には「主催・鶴岡八幡宮」の看板があるのに対して、秋には「主催・鎌倉観光協会」の横断幕が掲げられること。鶴岡八幡宮の年中行事の立て札には流鏑馬神事は年に一回、秋の方しか書かれていないこと。少し調べてみると、春と秋で流鏑馬を行っている流派が異なることが分かった。

そこで、さらに詳しく鶴岡八幡宮での流鏑馬を知ると共に、二つの流派、全国で行われている流鏑馬について、知りたいと思い、今回の研究に至った

### 第一章 流鏑馬の概要について取り上げた。

まず定義のなかで《疾走する馬上から鏑矢を射流して木製方形の的を射る》ことから流鏑馬の字が当てられたと考えられていることに触れた。

次に起源については、さまざまな説があるが、一番多くみられたのは、『日本書紀』天武天皇9年(680年)の条に長柄社(奈良県)で行われたとする「馬的射(ムナマト)」であった。「流鏑馬」という字で記されたものとしては、後冷泉朝の『新猿楽記』に見られる記事が流鏑馬の名が見える最古のものだという説をとりあげた。そもそもの起源については、欽明天皇が豊前国宇佐の地において天下平定、五穀成就を祈らせ、馬上にて三韓になぞらえた三つの的を射たのが、矢馳馬(ヤバセメ)の起源だとする説がある。

最後に流鏑馬の歴史を時代ごとに分けて記した。

### 第二章 現在、全国で行われている流鏑馬を三つに区分して取りあげた。

最初に神社で行われている流鏑馬を29ヶ所。流鏑馬と名がついてはいるが、馬は走らないものや、子供によるものなど、さまざまな種類の流鏑馬が各地で

伝えられ、神社に奉納されていることが分かる。

次に小笠原流が行っている流鏑馬を10ヶ所。伝統にのっとり厳格な儀式としての流鏑馬が行われている。

最後に武田流のものを9ヶ所。このほかにも、競馬場などで流鏑馬を行っているが、観光行事としての流鏑馬もいくつかみられた。

### 第三章 鶴岡八幡宮で行われている流鏑馬を取り上げた。

秋の例大祭で行われている流鏑馬は小笠原流が行ってきた。小笠原流は源頼朝に仕えた長清を初代に將軍家の保護を受け伝えられてきた。現在は第三十一代清忠が宗家を襲名し小笠原流を伝えている。

春の鎌倉まつりでの流鏑馬は武田流によって行われている。武田流をさかのぼっていくと小笠原流と武田流が元来家柄を同じにしていたことが分かる。武田流は現在三つの団体によって伝えられているようだが本研究では鎌倉まつりで流鏑馬を行っている武田流弓馬道を伝える大日本弓馬会について詳しく調べた。

### 第四章 小笠原流と武田流を比較した。

どちらかといえば小笠原流が厳格な作法を重んじるのに対し、武田流は広く一般に公開することを目的としているために、観光協会や商工会主催の流鏑馬を行っているのではないかと。逗子海岸での武田流流鏑馬と鶴岡八幡宮での流鏑馬の違いは儀式の長さで、逗子海岸のものは始まってから間もなく騎射が始まるのに対し、鶴岡八幡宮のものは騎射の前後に儀式があり全体として大変長いものとなっている。逗子の流鏑馬では女性も射手を務めていた。

### 終章

神社での神事にその形を伝えているもの、將軍家に庇護されたもの、熊本まで渡って保護され今日に至るもの、経過はさまざまであるが、今後も流鏑馬が継承されるように、どの流鏑馬もそれぞれの神社や流派、団体によって行われているからこそ多くの人が集まるものになっている。

千年に渡って伝えられてきた流鏑馬を行う行事がこの先も続いていくことを願ってやまない。